

企 画 名 : 生きもの元気米(生物多様性認証米)の取り組みによるネオニコチノイドフリーエリアの拡大  
団 体 名 : NPO 法人 河北潟湖沼研究所

## 1. 報告要旨

3軒の農家との協働からスタートした生きもの元気米の取り組みであったが、2015年3月末の時点で、取り組みへ参加表明する農家が5軒となり、生きもの元気米の栽培圃場の面積は、90aから140aに拡大した。また生きもの元気米の販売では、首都圏を中心に積極的な直接販売も実施し、合計1.5トンを超えて3月末までに完売した。さらにグリーンピース・ジャパンとの協働により取り組んだ2015年度米の早期予約も3月末で約750kg分があり、栽培面積の拡大を図ることになった。

水野玲子さんを招いてのシンポジウムでは、新たな契約農家となった人を含め、複数の農家が出席して、わかりやすい講演を受け、活発な質疑応答があり、ネオニコチノイド系農薬の問題について認識が深まった。東京ビックサイトで12月11～13日に開催されたエコプロダクツ展において、ネオニコチノイド系農薬の問題点と生きもの元気米の取り組みをアピールした。また200名に対してネオニコチノイドフリーエリア拡大の取り組みを説明して生きもの元気米のサンプルを配布し、アンケートをとった。さらに100名に生きもの元気米を販売した。水野氏のシンポジウムとエコプロダクツ展においてアクト・ビヨンド・トラストが作成したパンフレット「ネオニコチノイド系農薬って？」を約300部配布した。

ネオニコチノイド系農薬の問題、生きもの元気米の取り組み、河北潟での圃場の生物調査の結果等をまとめた冊子「ネオニコチノイド系農薬を使わない米づくりは可能か？ 生きもの元気米でつくる豊かな水田生態系」(B5版 28ページ)を1200冊作成した。また、調査結果のうち、陸生無脊椎動物の調査結果について論文にまとめた。

生物多様性アクション大賞 2015 において、生きもの元気米がえらぼう部門の優秀賞を受賞した。また、生きもの元気米を含む河北潟地域での保全活動が日本自然保護大賞保護実践部門を受賞した。

## 2. 成果物

1. [冊子「ネオニコチノイド系農薬を使わない米づくりは可能か？ 生きもの元気米でつくる豊かな水田生態系」](#)
2. [論文「河北潟周辺の圃場におけるラジコンヘリによる農薬の一斉空中散布前後での陸生無脊椎動物群集の比較」河北潟総合研究 18 巻\(印刷中 成果物 1 に収録\)](#)
3. [日本自然保護大賞授賞式・活動発表会パンフレット「保護実践部門 生きもの元気米を生み、生物多様性保全の道標となった河北潟レッドデータブック」](#)
4. [生物多様性アクション大賞 2015「えらぼう部門 生きもの元気米」](#)
5. 「河北潟米をブランド化 農薬を制限『生きもの元気米』」北國新聞(2014.4.24)
6. 「『生きもの元気米』初出荷 津幡の NPO、農薬制限」北國新聞(2014.9.19)
7. 「河北潟の保護で大賞」北陸中日新聞(2015.2.3)
8. 「津幡の NPO に自然保護大賞」読売新聞(2015.2.3)
9. 「自然保護大賞に河北潟湖沼研究所」北國新聞(2015.2.3)